平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	11	ー	50

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	図書館施設改修事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係兼図書業務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
		氏名	横田和幸		氏名	櫻井輝久
事業の概要	現有図書館は、建設から38年余り経過しており、トイレ部分の老朽化が著しく、衛生面の向上のため改修を実施する。					

全体計画	/単年度のみ	
（平成 23 年度～	年度）	
事業費	国・道支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	3,423 千円
	事業費計	3,423 千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　　）
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度 B

事業の位置付け		
政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進
単位施策	5	施設・備品の有効活用
事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務
その他計画・根拠等		

事業費	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	3,281 千円	千円
合計	千円	千円	千円	3,281 千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	町民
【抱える課題やニーズは】	老朽化が著しく狭小なトイレ空間の解消、衛生面の向上を図る。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	トイレの改修により、衛生的で快適な施設空間を確保する。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	図書館を利用する町民に対し、衛生的で快適なトイレ空間を提供することにより、図書館のイメージアップが図られ、利用増の一助となる。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

図書館トイレ改修

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 図書館トイレ改修	目標年度	平成23年度
	目標値	1 式
	実績値	1 式
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
図書館トイレ改修	便器交換、仕切り設置、人感センサーライト・ジェットタオル設置等

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	町民が快適に利用できる公の施設の維持管理については、施設設置者である行政が実施する必要がある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	トイレの改修により、衛生的で快適な空間を提供することができた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	効率的な間取り設計及び人感センサーライト・ジェットタオルの導入による省エネルギー化が図られ、可能な限りコスト削減に努めている。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	公の施設である図書館の施設改修であり、利用対象は全町民となり得ることから、公平性は保たれている。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
計画どおり事業を達成した。		

今後の展開方向
（Action）

終了		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）